

国際フォーラム

第4回

活動報告

トランプ時代のアメリカと世界の展望

9月22日(火・祝)、文京シビックセンターにて、第4回国際フォーラム「トランプ時代のアメリカと世界の展望」(共催:幸福実現党、民主中国陣線)を開催しました。第一部では、国際政治アナリスト 渡瀬裕哉氏と幸福実現党 政務調査会長 里村英一氏がスピーチを行いました。第二部では、ゲスト2名に民主中国陣線副主席の王戴氏が加わり、参加者の質問も交えながら活発な議論が行われました。



渡瀬裕哉氏 (国際政治アナリスト)

「2028年大統領選を見すえて - 11月3日中間選挙を分析する -」

現在、日米の大手メディアや大学の有識者などは左派に大きく偏向し、日本のメディアはアメリカの真の情勢は伝わってきません。メディアはしばしば「トランプ大統領は国際社会と対立している」と報じますが、「国際社会」とは実のところ「欧州の左派的な価値観」に過ぎません。トランプ大統領が真に戦っている相手は、国際機関やメディアに深く浸透した「左翼思想」なのです。その左翼思想を象徴するのが「ポリティカル・コレクトネス(政治的な正しさ)」です。この本質は、欧米の基盤であるキリスト教的道徳観や、男女の区別、家庭は家族が育むものといった伝統的な「常識」を破壊することにあります。行き過ぎたLGBT推進や一部の気候変動問題の背後には、既存の道徳や信仰を真っ向から否定し、社会を解体しようとする共産主義的な思想が潜んでいます。聞こえの良い子育て支援などの福祉政策も、結果的に家族をバラバラにして政府への依存を強める危険性を孕んでいます。トランプ大統領が掲げる「MAGA(Make America Great Again)」運動や「反グローバリズム」とは、こうした左翼思想によって無理やり押し付けられる価値観を拒絶し、我々が本来持っていた「常識」を取り戻そうとする運動に他なりません。ソ連崩壊によって共産主義は終わったと多くの人が誤解していますが、実際にはメディア、大学、国際機関、行政などにその思想は浸透し、我々の意識を少しずつ塗り替えています。これは決して対岸の火事ではありません。我々は、世界で起きているこの戦いの本質を正しく理解し、日本社会に蔓延する左翼思想の脅威の一つ一つ立ち向かい、日本の社会と伝統を守り抜いていかなければならないのです。

里村英一氏 (幸福実現党 政務調査会長)

「アメリカ民主主義の崩壊は本当か？」

現日本のメディアはアメリカの「民主主義の危機」を過剰に煽りますが、その多くは左派的なポリティカル・コレクトネス(ポリコレ)に偏った報道に基づいています。アメリカを弱体化させている真の要因は、メディアや学界、官僚などに左派思想が侵入し、伝統的なキリスト教道徳に基づく「コンセンサス(常識)」を失わせたことにあります。米国の影響力ある思想家カーティス・ヤービン氏が指摘するように、アメリカは建国以来、約75年の周期で国が深刻な分断と危機に直面した際、ワシントンやリンカーンのような強力なリーダーを擁して困難を乗り越えてきました。現在のトランプ氏やヴァンス氏らの動きも、左派思想によってガタガタになった伝統と常識を立て直すための歴史的なプロセスと捉えることができます。アメリカは危機の時代にこそ真の強さを発揮します。私たちはメディアの偏向報道に惑わされることなく、ポリコレに対抗するコンセンサスと国際的な正義の立場から情勢を正しく見極め、世界を正しい方向へと導いていかなければなりません。



参加者の声

アメリカを中心とした世界の大きな流れが簡潔にまとめられた講演で参加して良かったです。(女性・60代)

伝統的価値と左翼的なポリコレとの戦いとして、独自の視点からよくわかりました。日本メディアの偏向を鋭く批判されていたことも印象的でした。(男性・60代・会社員)

2年後のアメリカ大統領選挙がますます気になってきました。とても貴重なお時間をいただけてうれしいです。(男性・20代・会社員)